

## 関西医大の診療力は、 次のステージへ。



### 新任教授就任講座概要

外科系講座の分割の狙い、  
効果と、その他講座の大きな方針 01

#### ■ 上部消化管外科

山崎 誠 主任教授 03

#### ■ 下部消化管外科

渡邊 純 主任教授 05

#### ■ 肝臓外科

海堀 昌樹 主任教授 07

#### ■ 胆膵外科

里井 壯平 主任教授 09

#### ■ 小児外科

土井 崇 主任教授 11

#### ■ 乳腺外科

高田 正泰 主任教授 13

#### ■ 脳神経外科

荻中 正博 主任教授 15

#### ■ 眼科

今井 尚徳 主任教授 17

#### ■ 精神神経科

加藤 正樹 主任教授 19

#### 新教授着任講座 スタッフ一覧リスト 21

INDEX

#### ■ 関西医科大学附属病院

TEL.072-804-0101 (代)  
https://hp.kmu.ac.jp/  
〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1  
地域医療連携部 病診連携課(地域医療センター事務局)  
TEL.072-804-2742 FAX.072-804-2861



#### ■ 関西医科大学香里病院

TEL.072-832-5321 (代)  
https://hp.kmu.ac.jp/kori/  
〒572-8551 大阪府寝屋川市香里本通町8-45  
地域医療連携部 病診連携係  
TEL.072-832-9977 FAX.072-832-9988



#### ■ 関西医科大学天満橋総合クリニック

TEL.06-6943-2260 (代)  
https://hp.kmu.ac.jp/temmabashi/  
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-7-31 (OMMビル 3階)  
TEL.06-6943-2260 FAX.06-6943-9827



#### ■ 関西医科大学総合医療センター

TEL.06-6992-1001 (代)  
https://hp.kmu.ac.jp/takii/  
〒570-8507 大阪府守口市文園町10-15  
地域医療連携部 病診連携課  
TEL.06-6993-9444 FAX.06-6993-9488



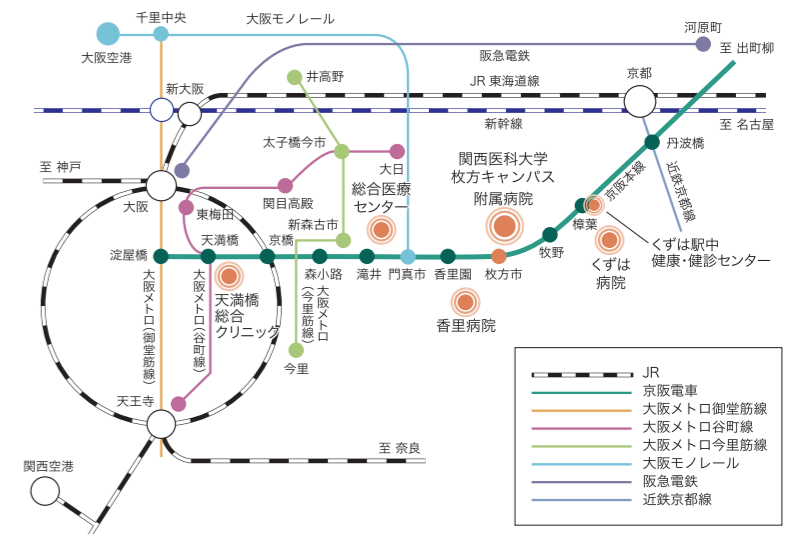
#### ■ 関西医科大学くずは病院

TEL.072-809-0005 (代)  
https://hp.kmu.ac.jp/kuzuha/  
〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町4-1  
地域医療連携課  
TEL.072-809-0013 FAX.072-809-0022



#### ■ くずは駅中 健康・健診センター

TEL.072-809-2005 (代)  
https://hp.kmu.ac.jp/kuzuhaekinaka/  
〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町14-1 (京阪くずは駅ビル南館 2階)  
TEL.072-809-2005



枚方キャンパス



関医タワー

関医タワーホテル

附属病院

医学部棟

看護学部棟

交流センター

進化と深化を続ける、  
関西医科大学の  
**診療力の真価。**



香里病院



総合医療センター



くずは病院



次々と進化し、深化する  
関西医科大学は、  
新たな次元を切り開きます

関西医科大学では今年4月、従来「外科学講座」としてひとつに統合されていた外科系領域を新たに独立した6講座として「上部消化管外科」「下部消化管外科」「肝臓外科」「胆膵外科」「小児外科」「乳腺外科」に再編しました。これにより6人の主任教授が誕生。さらに「脳神経外科」「眼科」「精神神経科」でも主任教授が交代。新たな体制で新年度のスタートを切りました。私たちは、新たに独立した外科系講座だけでなく全ての診療科において診療機能の強化を図り、医学・医療の全領域において高い専門性を発揮するプロフェッショナル集団として、北河内の健康と暮らしを支えていきます。

「今」だけでなく  
「これから」を見据えた  
人材育成と次代の布石も。

私たち関西医科大学は今後も、たゆまぬ努力を積み重ねることで診療機能の強化に取り組みます。また、大きな裁量を得た新外科系6講座だけでなく全ての講座において人材のリクルートと育成を積極的に推進します。実績を積み上げることで次代の育成に向けたノウハウを蓄積し、次の世代に伝えていきます。私たちは「今」に満足することなく常に進化を目指し、近隣の医療機関と二人三脚で地域医療に貢献していきます。そうした取組を風土として維持、発展させ、健康沿線をさらに盛り上げていくつもりです。

外科学講座を  
6講座に再編、  
さらに強化

小児外科学講座

**土井 崇**

主任教授

乳腺外科学講座

**高田 正泰**

主任教授

胆膵外科学講座

**里井 壮平**

主任教授

肝臓外科学講座

**海堀 昌樹**

主任教授

上部消化管外科学講座

**山崎 誠**

主任教授

下部消化管外科学講座

**渡邊 純**

主任教授

3つの講座で新しい主任教授が誕生!

精神神経科学講座

**加藤 正樹**

主任教授

眼科学講座

**今井 尚徳**

主任教授

脳神経外科学講座

**埜中正博**

主任教授

CONTENTS

○上部消化管外科学講座

**山崎 誠** 主任教授 ...P.3

最新・細心の外科的治療に加え、術前術後の支持療法で社会復帰を手厚くサポートします

○下部消化管外科学講座

**渡邊 純** 主任教授 ...P.5

大腸がん・直腸がん治療のスペシャリストとして手術、治療法の開発を進めています

○肝臓外科学講座

**海堀 昌樹** 主任教授 ...P.7

全国トップレベルの手術数と世界に先駆けた手術方法。ハイレベルな肝臓外科治療をご提供

○胆膵外科学講座

**里井 壮平** 主任教授 ...P.9

胆膵疾患でも、諦めないでいい。そんな未来を目指し、治療法の開発、改善に全力で挑んでいます

○小児外科学講座

**土井 崇** 主任教授 ...P.11

手術が必要なお子さんに明るい未来を。8K内視鏡を用いた小児低侵襲手術で豊富な経験があります

○乳腺外科学講座

**高田 正泰** 主任教授 ...P.13

腺疾患の診断から手術、薬物療法まで、最新のエビデンスに基づく最良の医療を提供します

○脳神経外科学講座

**埜中正博** 主任教授 ...P.15

早い・上手い・敷居が低い三拍子揃った地域に役立つ、脳神経外科を目指して

○眼科学講座

**今井 尚徳** 主任教授 ...P.17

網膜疾患の外科的治療で新規治療法・術式の開発に邁進。よりハイレベルな眼科診療へ

○精神神経科学講座

**加藤 正樹** 主任教授 ...P.19

専門である気分障害はもとより精神科領域での幅広い臨床経験から治療法の確立、創薬に貢献したい

○スタッフ一覧

...P.21



## 最新・細心の外科的治療に加え、術前術後の支持療法で社会復帰を手厚くサポートします

医学部上部消化管外科学講座  
主任教授

### 山崎 誠

Yamasaki Makoto

#### 食道がん手術の国内バイオニアとして

上部消化管腫瘍と称される食道がん、胃がん、GIST(消化管間質腫瘍)などを専門分野として診断治療を行い、特に食道がん治療を得意としています。食道は気管や大動脈、神経などの重要臓器に取り囲まれているため、昔から根治的な手術が難しい病気として知られていました。重要臓器に浸潤した腫瘍は致命的となるものの、それらの臓器の合併切除は技術的に困難で過大侵襲となるため過去にはタープー視されてきました。しかし、局所進行食道がんにおいては局所制御が極めて重要であり、たとえタープーとされていても、その手術技術を磨くことで救える命があるはずだと食道がんを専門に選び、これまで新たな手術術式や治療法の開発に邁進してまいりました。

#### 高度進行がんにも根治的な外科治療を

気管、大血管など周囲の重要臓器合併切除を含む拡大手術、および喉頭温存を目指した手術を得意としており、特に気管の合併切除では、耳介軟骨などを用いた自家組織移植によって発声機能を温存する術式を開発しました。

これまで執刀医、または手術指導医として携わった食道がん手術は約1,900件。気管や大動脈といった重要臓器の合併切除は100件を超え、国内屈指の症例数を経験しております。切除可能な食道がんに対しては、ダヴィンチやHindoriなどのロボット支援手術を中心に行っています。従来に比べ微細な解剖構造を鮮明に描出し、ブレのない操作が可能で、重要臓器との境界を安全に剝離

することができると、反回神経麻痺や肺炎などの術後合併症が極めて少なくなったことは大きなメリットです。

また、術後のQOL向上を目指した治療法の開発、支援活動にも力を入れてまいりました。術後合併症軽減・嚥下機能向上を目指した運動栄養療法、新規嚥下トレーニング法の開発や、術後逆流性食道炎に対する内視鏡的治療法の開発、患者会の定期開催などを通して患者さんの社会活動、日常生活への復帰を後押ししております。

#### 多職種連携による高度な医療を提供します

食道がんや胃がんといった上部消化管悪性腫瘍は、術後の栄養状態、身体機能の低下が社会生

活や日常生活への復帰の妨げとなるのが問題となるケースが多くあります。そこで当科では手術のクオリティーのみならず、術前術後の支持療法による多面的なアプローチにも力を入れています。術後の日常生活への早期復帰を目指した術前からの運動療法を臨床試験として行っています。加えて、術後には生活実態調査を運動・栄養介入の指標とし、栄養管理科やリハビリ科との連携による積極的リハビリテーションを実施しています。

#### 患者さんが自分らしく生きていくために

当科では、患者さんが自分らしく生きていくために我々ができることを考え、診療にあたっております。疾患を治すこと、食事がおいしい

と思えること、声を出して会話ができていくこと、そして社会と繋がって生活していくこと。患者さんそれぞれの価値観に対応できる治療に努め、新たな治療法の開発にも力を注いでいます。その過程では、ご紹介元の先生方とのコミュニケーションを大切に、患者さんの状況を一緒に把握しながら、全人的な治療を双方向で実施することを心がけております。

スタッフ一丸となり、上部消化管悪性疾患のみならず、外科治療を要する急性疾患においてもシームレスに対応できる体制の強化に努めておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

#### 山崎医師の手術症例数

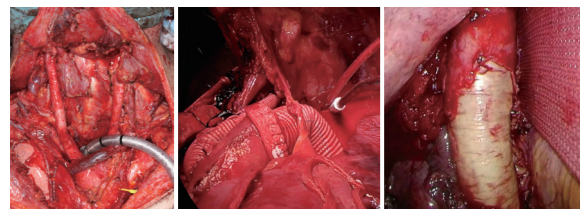
合併切除 約1,900例

気管・大動脈など重要臓器の合併切除 100例以上

うち、関西医科大学着任後

合併切除 約20例

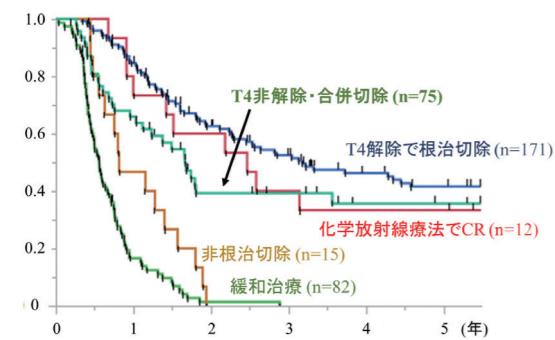
手術指導・手術指導 約300例



気管合併切除、縦隔気管孔 大動脈弓部合併切除 ステントグラフト内挿後大動脈合併切除

#### 重要臓器合併切除 手術例

#### 気管・大血管浸潤(T4b)食道がんの予後曲線



気管・大血管浸潤食道がん症例(355例)の予後曲線を示します。化学療法や化学放射線療法治療にて浸潤解除されたうえで根治切除できた症例(青線:171例)や腫瘍が消失した症例(赤線:12例)は良好な予後が得られます。一方で、浸潤が解除されず根治切除できなかった症例(橙線:15例)や緩和治療をした症例(深緑線:82例)は極めて予後が不良です。しかし、浸潤が解除されなかったが合併切除できた症例(黄緑線:75例)では3年生存率が40%と長期予後を望める結果が出ています。

#### 上部消化管外科では以下の疾患を中心に診療を行っています

- ◆ 良性疾患の外科治療
  - ・鼠径ヘルニア
  - ・腹壁癒着ヘルニア
  - ・食道裂孔ヘルニア など
- ◆ 悪性腫瘍に対する集学的治療
  - ・胃がん
  - ・食道がん
  - ・GIST(消化管間質腫瘍)
  - ・十二指腸腫瘍 など

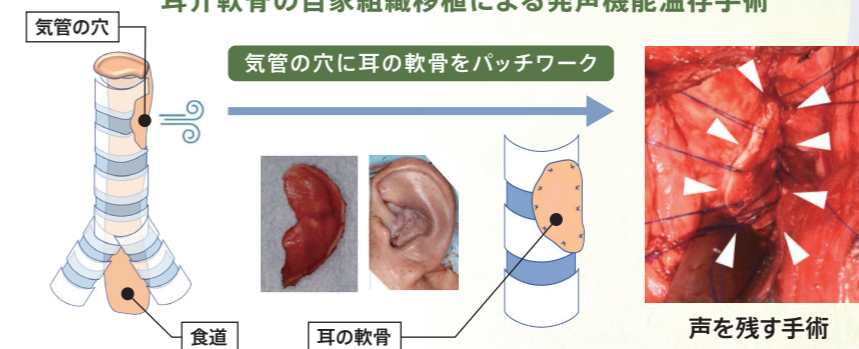
#### ◆ 高度な肥満や肥満に伴う2型糖尿病に対する外科治療(糖尿病センター)

急性腹症(消化管穿孔やイレウスなど)も可能な限り迅速に対応しておりますので、ご遠慮なくお声がけください。

#### 山崎 誠 Profile

- 1996年3月 大阪大学医学部 卒業
- 1996年5月 大阪大学医学部附属病院 第二外科研修医
- 1997年4月 市立貝塚病院 外科医員
- 2001年7月 大阪大学大学院医学系研究科 病態制御外科 研究生
- 2002年1月 DNAチップ研究所 客員研究員兼任
- 2005年5月 大阪大学医学部附属病院 消化器外科医員
- 2006年7月 大阪大学大学院医学系研究科 外科学講座 消化器外科学 助教
- 2015年5月 大阪大学大学院医学系研究科 外科学講座 消化器外科学 講師
- 2017年11月 大阪大学大学院医学系研究科 外科学講座 消化器外科学 准教授
- 2018年4月 大阪大学医学部附属病院 病院教授
- 2021年4月 関西医科大学 外科学講座 准教授
- 2022年2月 関西医科大学附属病院 病院教授
- 2024年4月 関西医科大学医学部 上部消化管外科学講座 主任教授

#### 高度進行食道がんに対する気管合併切除における、耳介軟骨の自家組織移植による発声機能温存手術





# 大腸がん・直腸がん治療の スペシャリストとして 手術、治療法の開発を進めています

医学部下部消化管外科学講座  
主任教授

**渡邊 純**  
Watanabe Jun

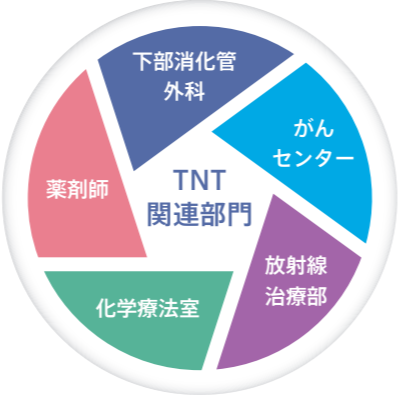
高校時代に受けた手術が  
今の道に繋がっています

私は高校生の頃に気胸を患い、一人の患者として手術を経験したことがあります。その時、まだまだ珍しかった胸腔鏡手術を受ける機会に恵まれたことで、開胸手術とは異なる入院期間の短さと回復の早さに感動し、手術や胸腔鏡の魅力にとりつかれて外科医を志すようになりまし。消化器外科に進んだのは、単に腫瘍などを切除するだけでなく再建まで行えることに魅力を感じたからです。中でも手術治療で多くの患者さんの命を救える大腸がんを専門としてまいりました。

高度進行がんにも  
根治的な外科治療を

専門分野は大腸がんに対する低侵襲手術治療（ロボット手術、腹腔鏡手術）、直腸がんの集学的治療、直腸がん治療における肛門温存、大腸がんに対する化学療法です。ロボット手術の導入により、がんの根治性を落とさず、術後合併症の減少、術後在院日数の減少という成果を得られています。また従来の方法よりも高い肛門温存率が得られる点においてもロボット手術には大きなメリットがあります。私は直腸がんにおいては肛門を最大限温存する治療方針をモットーとしており、現在の肛門温存率は95%以上です。

直腸がんの分野では、近年、術前治療（TNT: Total neoadjuvant therapy）の開発が進んでいます。TNTとは手術前に放射線療法・抗がん剤治療の両方を行う治療法で、直腸がんが消失する患者さんの割合は約30〜40%まで上昇しています。がんが消失した場合は、患者さんと話し合ったうえで手術をせず経過観察を行うことも可能となり、手術を回避できた場合は人工肛門の心配や排便機能障害が生じることがないため、当然な



がら生活の質を維持しやすくなります。当科でも積極的にTNTの治療開発を推進しており、下部消化管外科とがんセンター、放射線治療部、薬剤師、化学療法室の看護師たちによる密な連携により、この開発・実施体制を強化していきたいと考えています。

顔の見える交流で  
地域連携を深めたい

診療にあたっては、「すべては患者さんのために」をモットーに、安心して治療を受けていただける環境づくりに努めています。患者さんと医師の信頼関係を非常に重要と考えており、十分な説明、納得して治療を受けていただくためのコミュニケーションを欠かしません。大腸がん、直腸がんの患者さんだけでなく、診断手術適応に迷われる場合でも当院で精査いたしますので、どうぞお気軽なご相談ください。当科では緊急症例にも最大限対応しており、ご紹介いただいた先生には、患者さんの経過について、初

回受診後、手術後、加えて病理結果が判明した際に迅速にご報告するようにしています。今後も当科では、患者さんの個別のニーズと希望に対応し、国内最高レベルの手術治療、最先端の集学的治療を提供することで、北河内医療圏の皆さんに貢献していきたいと考えています。私個人としてはこれまでの大腸がん手術の臨床経験を活かし、大腸がんの手術成績の向上、根治性の向上に努め、地域の患者さんに最良の手術治療を提供してまいります。地域の先生方とは「顔の見える」雰囲気での交流を通して、地域連携を深めることができましたら幸いです。

## 直腸がん治療



## 渡邊 純 Profile

- 2001年3月 横浜市立大学医学部 卒業
- 2001年5月 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 外科レジデント
- 2003年4月 横浜市立大学医学部 第二外科 入局
- 2003年4月 国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院 外科
- 2004年4月 横浜市立市民病院 外科
- 2005年4月 東京厚生年金病院 外科
- 2006年4月 横浜市立大学大学院 医学研究科 消化器病態外科学 大学院入学
- 2006年5月 理化学研究所 ゲノム科学総合研究センター 客員研究員
- 2009年4月 横浜市立市民病院 外科
- 2011年4月 横浜市立大学医学部 消化器・腫瘍外科 助教
- 2012年4月 国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院 外科
- 2013年4月 国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院 外科医長
- 2016年1月 国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院 外科副部長
- 2017年4月 横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター 外科 講師
- 2021年4月 横浜市立大学附属市民総合医療センター 消化器病センター 外科 准教授
- 2024年4月 関西医科大学医学部 下部消化管外科学講座 主任教授

大腸がん・直腸がんの患者さんがいらっしゃれば  
下部消化管外科へご紹介ください

・診断前 ・手術適応に迷う ・紹介する病態病状が迷う

当院で精査いたします。お気軽にご紹介ください。  
緊急症例などお困りの患者さんも最大限対応いたします。

専門  
分野

- ・大腸がんに対する低侵襲手術治療（ロボット手術、腹腔鏡手術）
- ・直腸がんの集学的治療
- ・直腸がんに対する肛門温存治療
- ・大腸がん化学療法





# 全国トップレベルの手術数と 世界に先駆けた手術方法。 ハイレベルな肝臓外科治療をご提供

医学部肝臓外科学講座  
主任教授

海堀 昌樹

Kaibori Masaki

## オーダーメイドな手術を 常に安全・丁寧に行っています。

医師となつて30年以上、肝臓疾患の診療と研究に携わってまいりました。肝臓の手術は患者さんごとに肝機能や腫瘍占拠部位が異なり、常にオーダーメイドで実施する必要があります。加えて微細な血管の処理を要するために、外科領域でもとりわけ高難度な手術手法が要求される分野です。これまで、合併症リスクを抑え、常に安全・丁寧な手術を行うことを第一信条に研鑽を積んでまいりました。開腹肝切除、腹腔鏡下肝切除から生体肝移植まで約2千件余りの肝切除術で実績があります。

## 悪性疾患の根治にこだわり 手術術式の開発、研究に尽力

肝臓および胆道の悪性疾患に対する低侵襲な腹腔鏡やロボット手術から超高難度手術とされる血管合併切除再建を伴った拡大肝葉切除術まで積極的に取り組んでおり、徹底したがん根治手術にこだわっています。加えて、外科切除を基軸に、免疫チェックポイント阻害薬を含む薬物療法、身体機能の最適化を目指した栄養療法連動療法を組み合わせた集学的治療で、がんの根治など患者さんの長期生存を追究しています。また、病態の原因解明のための基礎研究にはじまり、新しい手術術式の開発や新規医療機器の開発に向けたトランスレーショナルリサーチなど、新たな知見を産み出す研究を継続して

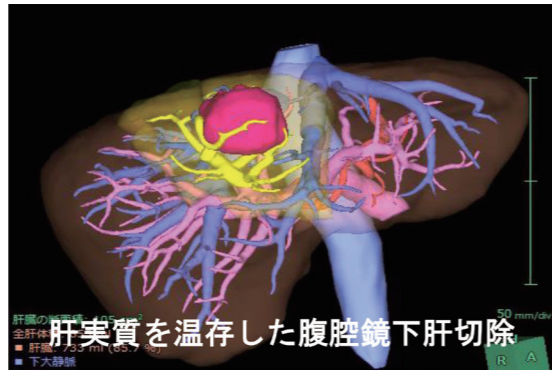
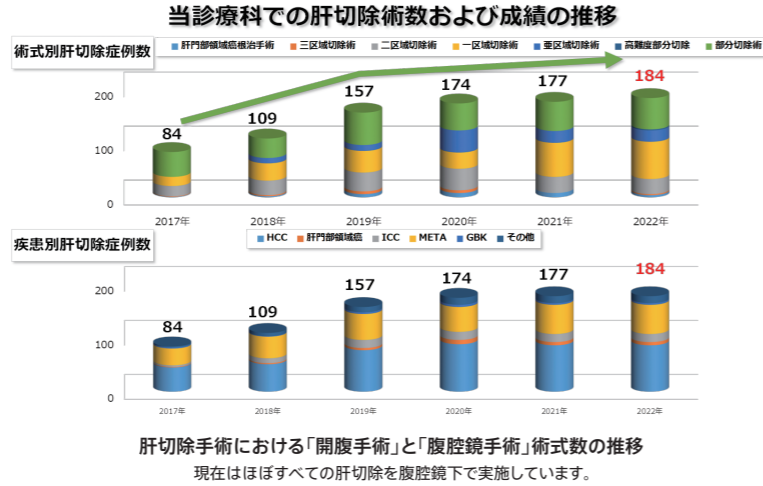
行ってきました。

## 低侵襲な手術と 世界に先駆けた手術方法

私たち肝臓外科の強みは大きく2つあると自負しており、一つめが、チーム丸となり患者さんの負担が少ない低侵襲手術を提供していることです。当科では現在、年間約180件の肝切除術を実施しています。症例数は連年、全国3位以内(西日本では1位)を継続しており、最も肝臓外科手術数の多い病院の一つと評価をいただけるまでになっております。中でも腹腔鏡下肝切除術の実施件数は日本トップレベルであり、現在ほぼすべての肝切除を腹腔鏡下で安全に実施。術後合併症発生率も低率です。

## 肝臓外科で一丸となり ご満足いただける医療を

これまで日本全国から多くの患者さんをご紹介いただいておりますが、中でも北河内エリアの先生方には日頃より大変お世話になっております。胆臓外科は今後も総力を結集して最良の外科治療を追究し続け、全国トップレベルの治療経験をともに新たなエビデンスを創出することで、地域の患者さんに最新かつ安全な治療を提供します。同時にご紹介いただいた患者さん、およびご紹介くださった地域の先生方に心からご満足いただけるよう医療サービス向上に努めてまいります。地域の先生方におかれましては、肝臓がん、転移性肝がん、および胆道がんでの治療においてお困りのことがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

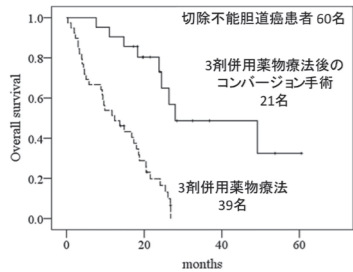


ロボット支援下肝切除における肝切除領域の可視化

さらにロボット支援下肝切除術を導入しており、低侵襲かつ精緻で安全な手術手法を提供しています。また、「術前3Dシミュレーションシステム」を用い、切除するべき血管・温存するべき血管を同定して過不足のない最適化された肝切除領域を設定した上で、手術中にもリアルタイムに肝切除領域を可視化し安全で確実な肝切除を実現しています。

リスクが低く、腹壁へのダメージが少ないことから術後疼痛が軽微な点も大きなメリットです。当科の二つめの強みが、世界に先駆けて実施している、切除不能な胆道がんの患者さんに対する化学療法を組み合わせたコンバージョン手術です。胆道がんは極めて難治性であるうえ、症状なく進行するために約7割の患者さんが初診時点で切除不能な状態です。当科ではそういった患者さんに、免疫チェックポイント阻害薬を含む3剤併用薬物療法を約半年間にわたり実施して、腫瘍を小さくしてから根治切除を実施するコンバージョン手術を提供しています。この治療により、当科では切除不能胆道がん患者さんの約3割で根治切除を実施。良好な予後延長効果を認めています。

## 切除不能胆道がんに対する 化学療法を組み合わせたコンバージョン手術



60名のうち  
21名に実施

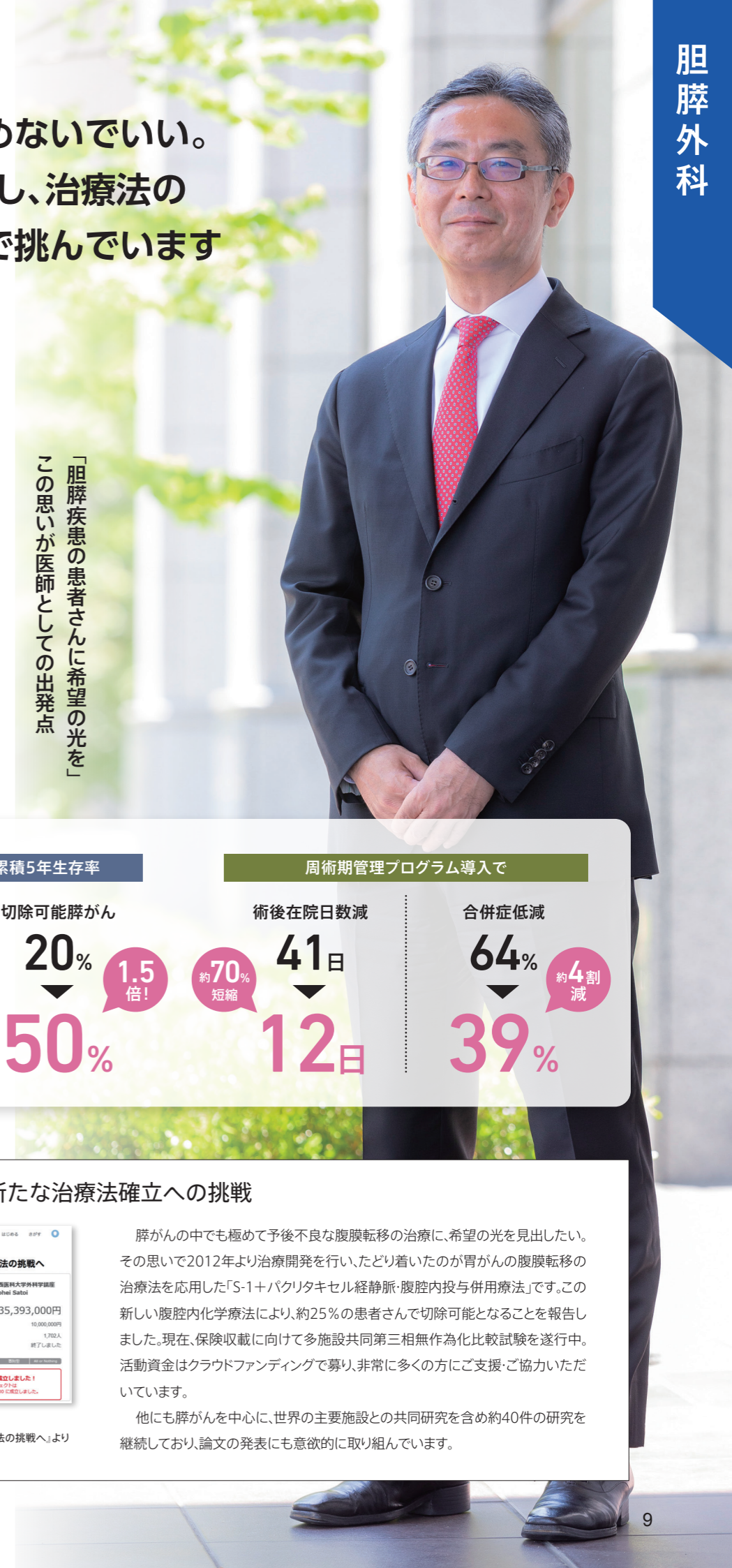
## 海堀 昌樹 Profile

- 1991年3月 関西医科大学 卒業
- 1992年2月 国保古座川病院 外科 出向
- 1993年2月 城山病院 出向
- 1993年5月 関西医科大学附属香里病院 外科助手
- 1997年4月 京都大学医学部移植外科 国内留学
- 2007年4月 関西医科大学 外科学講座 助教
- 2009年4月 関西医科大学 外科学講座 講師
- 2013年4月 関西医科大学 外科学講座 准教授
- 2015年4月 関西医科大学 次世代低侵襲外科治療学講座(寄附講座)准教(兼任)
- 2016年10月 千葉大学 フロンティア医工学センター 特別研究准教授
- 2018年8月 関西医科大学 外科学講座 肝臓外科担当診療教授
- 2018年8月 関西医科大学 次世代低侵襲外科治療学講座(寄附講座)教授(兼任)
- 2020年7月 関西医科大学 サージカルサイエンス社会連携講座 教授(兼任)
- 2024年4月 関西医科大学医学部 肝臓外科 主任教授

このような症状の方  
肝臓外科へご紹介ください

このような症状の方 肝臓外科へご紹介ください

- ・肝臓がん(切除不能肝がんを含む) ・転移性肝がん
- ・胆道がん  
(肝内胆管がん、肝門部胆管がん、胆嚢がん、切除不能胆道がんを含む)
- ・肝嚢胞(単発・多発) ・胆血管腫
- ・脾腫瘍(転移性脾腫瘍、悪性リンパ腫を含む)
- ・脾機能亢進症



## 胆膵疾患でも、諦めないでいい。 そんな未来を目指し、治療法の 開発、改善に全力で挑んでいます

医学部胆膵外科学講座  
主任教授

里井 壯平

Satoi Souhei

「胆膵疾患の患者さんに希望の光を」  
この思いが医師としての出発点

胆膵外科医として、胆嚢摘出術から膵頭十二指腸切除まで幅広く外科治療に対応しています。およそ30年前の胆膵疾患の外科治療といえば、合併症や死亡率が高く治療成績も極めて不良でした。特に胆嚢がん・胆管がん・膵がんは顕著で、当時は患者さんも治療者側も希望を持てない時代が続いていました。私が胆膵外科の専門医となったのは、患者さんに希望を持ってもらえるような新規治療を開発したいと考えたからです。

### 治療成績の改善や 周術期管理の標準化に尽力

これまで良性悪性を問わず胆嚢・胆管・膵疾患の治療にあたり、新規治療法の開発、周術期管理の標準化などを通じた外科治療成績の改善、ならびに予後不良ながん患者さんをトータルサポートする体制の構築に取り組みしてきました。2000年頃より世界に先駆けて胆膵がんに対する術前・術後の補助化学療法を導入し、2010年には膵がん術前治療研究会を設立。2006年に胆膵外科のチームに就任してからは、診療のPDCAサイクルに即し介入と評価を繰り返して治療成績の改善を実現してまいりました。

また、胆膵外科治療における周術期管理の標準化を2008年にほぼ完了し、翌年からはがんの潜在性肝転移や腹膜播種を診断する審査腹腔鏡検査を導入。切除可能膵がんで20%、切除不能局所進行膵がんで50%の患者さんが潜在性遠隔転移を有することを明らかにして基準を作成しました。加えて、切除不能がんにおいては集学的治療を行っており、治療が奏功した患者さんには積極的に切除を行って治療成績を改善しています。

### 各自が高い専門性を発揮し、 高度な集学的治療を提供します

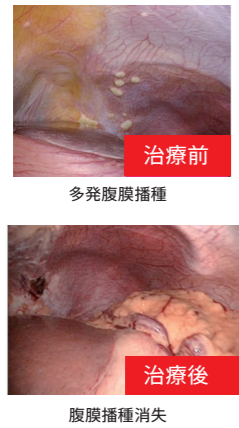
胆膵疾患の診断には専門機器や技術を要するケースが多く、手術の高侵襲性や合併症リスクを考えると治療は非常にセンシティブで

す。だからこそ私たち胆膵外科はチーム医療を重視しています。科内ではもちろん、消化器内科・放射線科・がんセンターなど関連科とのカンファレンスを定期的に実施。治療に際しては患者さんやご家族の生活・住環境を考慮し、意思確認を行いつつ治療方針を決定します。また、検査・治療前後にはかかりつけ医の先生方に情報共有を行い地域連携を推進しています。

### 患者さんに安心・便利な医療を ぜひ地域一帯で、これからも

胆膵外科では2007年より北河内医療圏における胆膵がん地域連携バスを稼働させ、地域の先生方との機能分担に努めてまいりました。おかげさまで緊急対応を含む専門的医療の体制を維持できており、直近5年間の胆膵外科の年間平均手術数はおよそ400件を数えます。これからも安心・安全・満足度の高い専門的医療を提供し、地域の先生方と情報共有して、北河内医療圏の皆さまの健康に寄与できるよう尽力します。より高度なチーム医療の実践に向けて努力してまいりますので、地域の先生方には、ぜひ今後も密接な協力関係を継続させていただき、お願い申し上げます。

### 2019～2024年 胆膵外科 年間平均手術数



その他の手術  
約100件

胆嚢摘出術  
約225件  
(緊急手術40件程を含む)

膵切除術  
約110件

#### 集学的治療の導入による累積5年生存率

切除不能膵がん  
切除治療後  
25%

切除可能膵がん  
20%  
1.5倍!  
50%

#### 周術期管理プログラム導入で

術後在院日数減  
41日  
約70%短縮  
12日

合併症低減  
64%  
約4割減  
39%

### 里井 壯平 Profile

- 1991年3月 関西医科大学 卒業
- 1991年5月 関西医科大学附属病院 外科 医員
- 1994年4月 八尾徳洲会総合病院 外科 医員
- 1999年4月 イギリス バーミンガム大学 肝胆膵・移植外科 臨床研究員
- 2000年4月 フランス リヨン赤十字病院 一般・肝移植外科 臨床研究員
- 2000年5月 ドイツ ハンブルグ大学 肝胆膵外科臨床研究員
- 2000年8月 ドイツ レーパークーセン総合病院 一般外科 臨床研究員
- 2000年10月 関西医科大学 第一外科 研究医員
- 2001年1月 関西医科大学 第一外科 助手
- 2003年4月 関西医科大学 外科 助手
- 2009年4月 関西医科大学 外科 講師
- 2013年4月 関西医科大学 外科学講座 准教授
- 2013年5月 東京医科大学 消化器・小児外科学講座 客員准教授
- 2015年8月 東京医科大学 消化器・小児外科学講座 客員教授
- 2018年8月 関西医科大学 外科学講座 胆膵外科担当診療教授
- 2019年11月 アメリカ コロラド大学 腫瘍外科学 客員教授、faculty member
- 2021年1月 リトアニア ビリニウス大学 外科学 客員教授
- 2024年4月 関西医科大学医学部 胆膵外科学講座 主任教授

### このような症状の方 胆膵外科へご紹介ください

- ・右季肋部痛
- ・体重減少
- ・糖尿病の悪化
- ・皮膚黄染
- ・糖尿病の新規診断

ご紹介時には、必要に応じて腹部超音波検査で胆石症・総胆管結石症・胆管や膵管拡張の有無をご確認いただき、血液検査で肝胆道系酵素・アミラーゼ値、CA19-9値など測定のうえご紹介いただけますと幸いです。緊急時は地域連携部へお電話ください。

### クラウドファンディングで新たな治療法確立への挑戦



クラウドファンディング  
『膵がん腹膜転移の患者さんに希望の光を。新しい治療法の挑戦へ』より  
<https://readyfor.jp/projects/suigan>

膵がんの中でも極めて予後不良な腹膜転移の治療に、希望の光を見出したい。その思いで2012年より治療開発を行い、たどり着いたのが胃がんの腹膜転移の治療法を応用した「S-1+パクリタキセル経静脈・腹腔内投与併用療法」です。この新しい腹腔内化学療法により、約25%の患者さんで切除可能となることを報告しました。現在、保険収載に向けて多施設共同第三相無作為比較試験を遂行中。活動資金はクラウドファンディングで募り、非常に多くの方にご支援・ご協力いただいています。

他にも膵がんを中心に、世界の主要施設との共同研究を含め約40件の研究を継続しており、論文の発表にも意欲的に取り組んでいます。

# 手術が必要なお子さんに明るい未来を。 8K内視鏡を用いた小児低侵襲手術で 豊富な経験があります

医学部小児外科学講座  
主任教授

**土井 崇**

Doi Takashi

小児外科全般の中でも  
新生児外科を得意としています

年間500例以上の  
小児手術を担当

小児外科での診療対象となる臓器は多岐にわたるため、専門分野を絞ることなく網羅的に対応する能力が求められます。そこに医師としてのやりがいを感じていますが、個人的に特にこだわりを持って取り組んでいる分野が「新生児外科」です。命の危険にさらされて生まれたお子さんの体にメスで挑み、その子の人生を大きく変えることができる仕事に魅力を感じています。加えて、大学院生の時や留学時代に研究対象としていた「先天性横隔膜ヘルニア」「ヒルシュスプリング病」「臍帯ヘルニア」は、臨床においても自信をもって治療にあたることのできる専門分野です。

過去5年間に私が手がけた手術症例は年間平均500例以上で、国内の小児外科主要施設の中でもトップクラスの小児手術症例数となっています。得意とする新生児外科領域では、内視鏡外科による低侵襲手術に積極的に取り組んできました。特に、手術症例のうち約半数を占めるのが、最先端の超高精細8K内視鏡外科システムを用いた低侵襲手術数です。子ども達の将来にとって大切な臓器を確実に温存し、安全かつ正確な手術を心がけています。

新生児直腸肛門奇形の代表例である「鎖肛」について、近年普及しつつある新しい治療法について紹介します。従来はまず生後間もなく人工肛門造設術を行い退院。人工肛門管理にて経腸栄養をすすめ体重増加を待ち、6-8か月時に肛門形成術を行い退院。その後1-2か月間、新肛門の創部安定を図ってから人工肛門閉鎖術を行い根治とし、根治まで3回の手術と1年弱の時間を要していました。

要であることは、従来の治療法ではあり得なかったメリットです。患児本人とご家族のQOL向上に大きく貢献する治療法として注目されており、当科でも実績があります。

**毎日が唯一無二の手術に  
やりがいを感じます**

それが新しい術式では、生後間もなく人工肛門造設術を行い、2週間経腸栄養を行った後の新生児期に肛門形成+人工肛門閉鎖術を行うことで根治退院します。1度きりの入院中に2回の手術で根治まで到達できること、退院時には人工肛門がなくご家族によるストマ管理が不

小児外科では未経験の症例に遭遇するのが日常茶飯事であり、だからこそチャレンジングでやりがいに満ちていると感じます。低侵襲の外科診療で傷をなるべく小さく少なく、大切なお子さんの傷は整容性を追い求め、身体と心とに与えるストレスを最小限に抑えるよう努めると同

時に、入院期間をできる限り短くできるような患児さんとご家族をサポートします。

また、外科医として技術と同じくらい大切なのは、患者さんやそのご家族との強固な信頼関係を築き上げていくことであるとと考えています。「この先生なら、かけがえのない我が子の命を預けて大丈夫」と思っていただけのようなインフォームド・コンセントには何よりも時間をかけていきますし、同様に、地域の先生方から「この先生なら大切な患者さんを任せられる」と思っていただけでも、直接ご挨拶にお伺いしお話しすることも大切に行っています。先生方とは顔が見える関係性の中でご紹介いただいた患児さんのご報告を欠かさず、病状改善後には逆紹介で先生方のもとへお帰りのいただけるように、病病連携および病診連携を強化して地域医療に貢献していきたいと考えています。

## バランス感覚に富んだ 診療科を目指します

小児外科では、スタッフ一同、患児およびご家族の不安な気持ちに寄り添い、できる限り安心して帰っていただけるよう努めています。心がけているのは、当科に何を期待して来院されているかをいち早く察し、答えを簡潔にお伝えすること。これからも地域の先生方や当院で協働する他科の医師、看護師やコメディカルのスタッフなどとの連携を大切にコミュニケーションのあり方に優れ、バランス感覚に富んだ診療科を目指していく所存です。



**このような患児さん  
小児外科へご紹介ください**

- ・内科的疾患か外科的疾患か診断に苦慮するような症例
- ・治療が長期間にわたりうまくいかない症例

診察所見から外科的な診断が明確である症例はもちろん、判断に迷うケースや難しい症例も当科におまかせください。チームで対応いたします。

- 専門分野**
- ・小児外科全般
  - ・新生児外科
  - ・小児低侵襲内視鏡外科
  - ・先天性横隔膜ヘルニア
  - ・ヒルシュスプリング病
  - ・臍帯ヘルニア

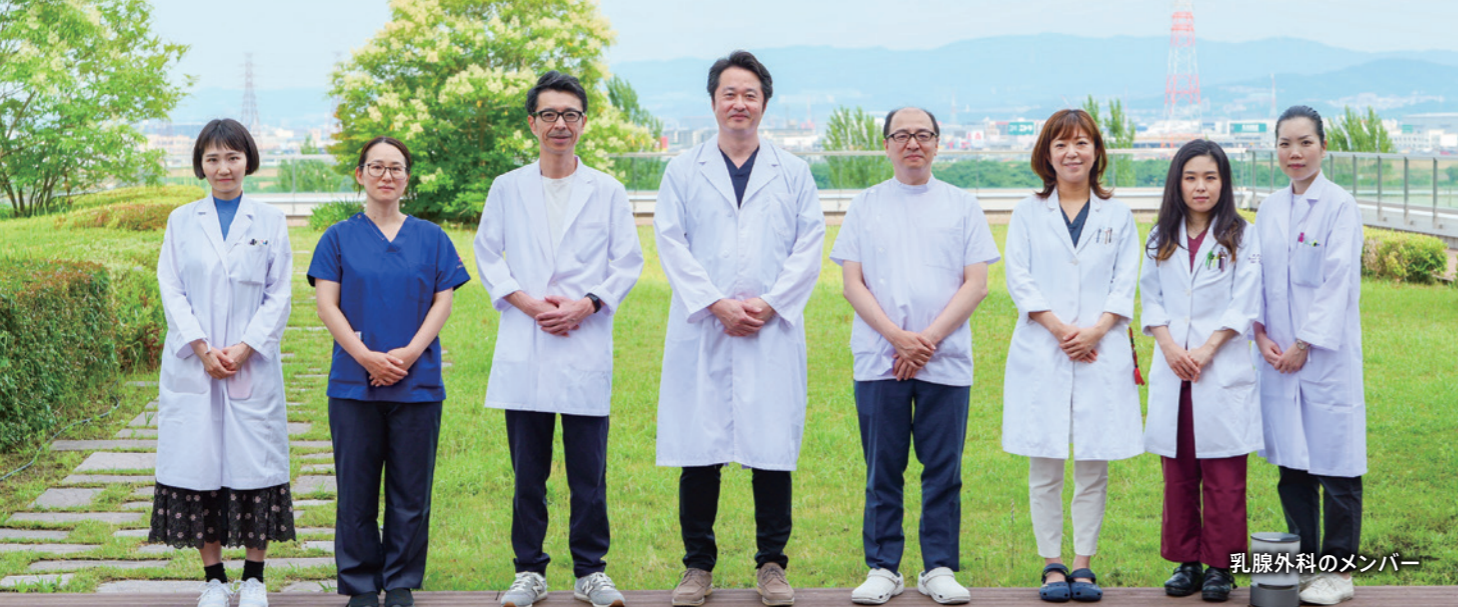
過去5年間の(2019~2023年)平均手術症例

# 500例以上/年

手術症例の1/2以上が  
**超高精細8K内視鏡外科システム**  
を用いた低侵襲手術数

## 土井 崇 Profile

- 2002年3月 順天堂大学医学部 卒業
- 2002年3月 順天堂大学医学部附属順天堂医院 外科研修医
- 2006年3月 順天堂大学大学院修了 医学博士号取得
- 2006年4月 順天堂大学医学部 小児外科学講座 助手
- 2007年4月 順天堂大学医学部 小児外科学講座 助教
- 2007年10月 アイルランド国立小児研究所 上級研究員
- 2011年6月 アイルランド国立ダブリン大学大学院 修了 PhD取得
- 2012年1月 順天堂大学医学部小児外科学講座 准教授
- 2017年6月 関西医科大学小児外科学講座 小児外科担当診療教授
- 2024年4月 関西医科大学医学部 小児外科学講座 主任教授



乳腺外科のメンバー

## 乳腺疾患の診断から手術、 薬物療法まで、最新のエビデンスに 基づく最良の医療を提供します

最新の知見に基づく診療と  
丁寧な対応がモットーです

乳腺外科学・乳腺診療・乳がん診療を専門領域としています。乳腺外科で扱う疾患の多くは乳がんですが、医師として診断から外科的治療・内科的治療までトータルで患者さんの診療に携わることができる点にやりがいがあり、腫瘍学の観点からも大変興味深い分野であると感じて

医学部乳腺外科学講座  
主任教授

高田 正泰

Takada Masahiro

外科治療から臨床研究、  
医療機器開発まで  
意欲的に取り組んでいます

手術治療では常に整容性維持を追求しており、乳房部分切除後の形成や乳頭乳輪温存乳房切離・乳房再建の経験が豊富です。この度ラジオ波焼灼術といった低侵襲治療も当院で対応可能となりました。

これまで遺伝診療にも積極的に取り組み、遺伝性乳がんの予防切除やサーベイランスに関する多くの症例を担当してきました。臨床研究では、国内多施設共同で行われたPOTENT試験を担当し、その結果により早期乳がん術後治療としてS-1が保険適応となった経験があります。

さらに医療機器開発にも取り組んでおり、過去には蛍光ガイド手術で用いる機器「Medical Imaging Projection System(Mips)」の開発に携わりました。Mipsは現在、医療機器として承認され、蛍光色素法センチネルリンパ節生検を確実に効率的に行うことに貢献しています。

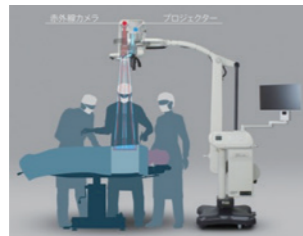
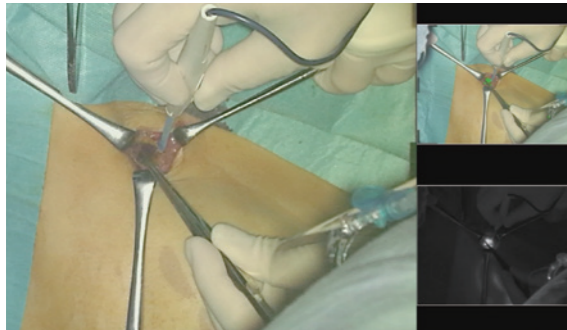
### 地域の基幹病院として 安心・安全な集学的治療を

乳がんの診療は集学的治療を基本とします。すなわち、腫瘍内科・形成外科・放射線科・病理診断科・遺伝子診療部門・産婦人科など関連する診療科との連携や、看護師、薬剤師、技師などとのチーム医療が重要です。当院では乳腺外科が中心となって多職種カンファレンスを実施しており、患者さん一人ひとりの治療方針を慎重に検

討しています。当院には乳腺専門医が6名、乳腺指導医が3名在籍しており、臨床試験や治療も活発に行なっていて、最新の医療を提供できる体制を整えています。

当科がこれまで多くの医療機関、地域の先生方と深めてきた信頼関係を大切に、これからも患者さんがさらに安心して診療を受けられるよう、どのような病状・病態でも対応可能な体制を強化します。また、周術期治療を終えたのちに、地域の医療機関で安心して過ごしていただけるよう診療連携をしっかりと取っていきます。北河内エリアの基幹病院として、安心・安全な医療の提供はもちろん、患者さんの予後やQOL改善につながるエビデンスの創出にも取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### MIPSを用いたセンチネルリンパ節生検の様子



精査・治療など目的に関わらず、  
乳腺疾患の症例は乳腺外科へご紹介ください

・全ての乳腺疾患(状態、病状は問いません)  
・診断に迷われるケース(疑い例)

どのような状態でも構いませんので、  
乳腺領域の疾患については  
いつでもお気軽にご紹介ください。

専門  
分野

・乳腺外科学 ・乳腺診療 ・乳がん診療

### 乳腺手術総数 2018~2022年度

368件

腫瘍摘出(良性)

27件

乳房再建

38件

### 乳がんに対する外科手術

乳房切除 乳房部分切除

153件 160件

乳輪乳頭温存乳房切除

18件 他

### 高田 正泰 Profile

- 2000年3月 北海道大学医学部医学科 卒業
- 2001年5月 東京都立駒込病院 研修医、医員
- 2007年3月 京都大学医学部附属病院 医員
- 2010年4月 日本学術振興会 特別研究員
- 2010年9月 アメリカ Dana-Farber Cancer Institute, Harvard Medical School 海外研修
- 2011年1月 韓国 Seoul National University Hospital 海外研修
- 2012年9月 京都大学大学院医学研究科修了 博士号取得
- 2012年10月 京都大学医学部附属病院 特定助教
- 2014年2月 京都大学医学部附属病院 助教
- 2015年3月 イギリス Addenbrooke's Hospital, Cambridge University University 海外研修
- 2016年3月 アメリカ Cleveland Clinic 海外研修
- 2021年5月 京都大学大学院医学研究科 准教授
- 2024年4月 関西医科大学医学部 乳腺外科学講座 主任教授

# 早い・上手い・敷居が低い 三拍子揃った地域に役立つ、 脳神経外科を目指して

成人の脳腫瘍、  
および小児脳神経外科で  
研鑽を積んできました

脳神経外科領域を専門とし、これまで脳腫瘍、特に下垂体腫瘍と聴神経鞘腫での症例実績を重ねてきました。顔面痙攣、三叉神経痛も多く手がけ、サブスペシャリティ領域とする小児脳神経外科では、特に先天性水頭症と二分脊椎の治療を得意としています。

医学部を卒業してしばらく経った頃、当時の

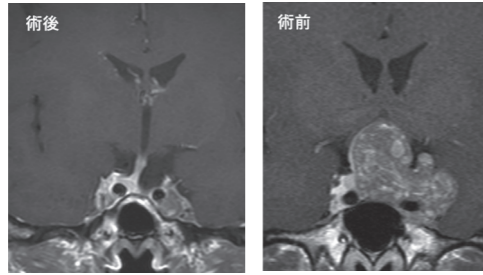
医学部脳神経外科学講座  
主任教授  
**埜中正博**  
Nonaka Masahiro

上司から脳神経外科の中でもサブスペシャリティを持つよう指導を受けました。そのときに選んだのが小児脳神経外科です。当時は日本全国でも専門診療科がほぼなく、同じ脳神経外科でも成人とは異なる病気を多く扱うこと、未知の領域が大きそうなところに興味を引かれて選びました。2014年には、本学附属病院で、日本では希少だった小児脳神経外科を開設。現在も、国内の大学病院では数少ない小児脳神経外科施設の一つとして、小児の特性を理解しながら最先端の医療を提供しています。

上司から脳神経外科の中でもサブスペシャリティを持つよう指導を受けました。そのときに選んだのが小児脳神経外科です。当時は日本全国でも専門診療科がほぼなく、同じ脳神経外科でも成人とは異なる病気を多く扱うこと、未知の領域が大きそうなところに興味を引かれて選びました。2014年には、本学附属病院で、日本では希少だった小児脳神経外科を開設。現在も、国内の大学病院では数少ない小児脳神経外科施設の一つとして、小児の特性を理解しながら最先端の医療を提供しています。

## 下垂体腫瘍に対する経鼻内視鏡下手術

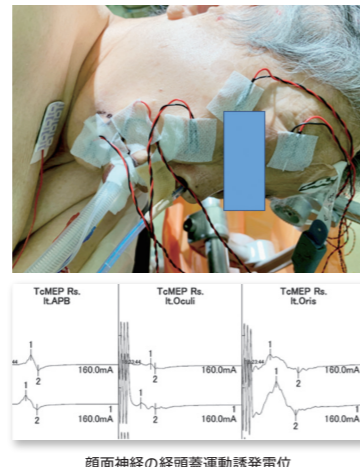
およそ2000年頃までは、上口唇の裏側を切開して顕微鏡でのぞきながら鼻中隔間を拡大し、下垂体に到達する術式が一般的でした。しかし内視鏡の画質向上にとれない、現在では経鼻内視鏡下手術が少しずつ普及しています。内視鏡手術は顕微鏡手術と比較して患者さんへの負担が少なく、視野が広くとれることから腫瘍の摘出率が高いというメリットがありますので、本学脳神経外科では積極的に取り入れており、さらに視神経の神経生理モニタリングによる視神経機能の温存にも力を入れています。



経鼻手術後のMRI画像

## 聴神経鞘腫の神経生理モニタリングによる機能温存手術

聴神経鞘腫では定位放射線治療と比較して聴力の温存率が高いため、聴力が残存している方には手術をおすすめしています。ただし、手術後に顔面神経麻痺や聴力残存例での聴力障



顔面神経の経頭蓋運動誘発電位

害が出現する可能性があるため、神経障害出現を回避すべく、顔面神経や聴神経に對しそれぞれ2種類の術中神経生理モニタリングを行います。

また、聴神経鞘腫術後6ヶ月における顔面神経麻痺残存については本学が世界トップクラスの施設と同等の治療成績を残しており、顔面がいれん三叉神経痛では9割以上で症状が消失できているのも、本学の実績です。

## 地域の先生方とともに 地域の皆様のために

診療にあたっては患者さんが不安にならないよう迅速な検査と、できる限りわかりやすい丁寧な説明を徹底し、すみやかに最善の治療方針を提案するよう努めています。また、ご紹介いただいた患者さんは、入院後、回復期リハビリテーションに転院された方以外は極力、紹介元の医療機関にお帰りいただいています。

私たちは、地域の他医療機関の先生方と何でも気軽に話し合え、迅速な対応ができるよう「対応が早い」「手術が上手い」「敷居が低い」の三拍子そろった脳神経外科を目指してまいります。

患者さんの症状にあわせ  
積極的に手術を実施しています

3,000例近くの症例の執刀、指導

脳腫瘍は合計1,000例以上

聴神経鞘腫を含む  
小脳橋角部腫瘍の症例

100例以上

下垂体腫瘍に対する  
経鼻内視鏡下の摘出術

100例以上

小児領域でも豊富な実績

先天性水頭症に対する  
内視鏡手術

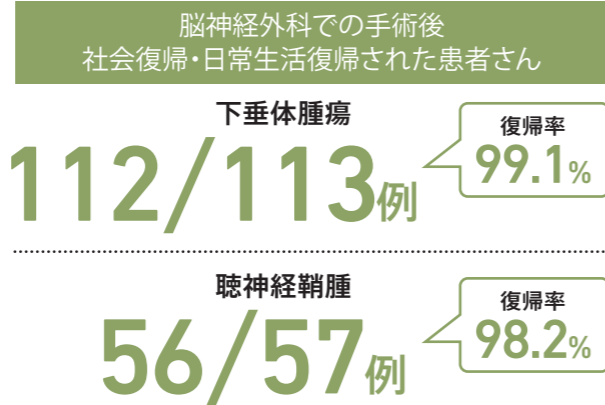
100例以上

脊髄髄膜瘤や脊髄脂肪腫  
などの二分脊椎関連

200例以上

このような症状の方  
脳神経外科へご紹介ください

- ・頭痛
- ・めまい
- ・視野が欠ける
- ・片耳が聴こえづらい
- ・片側の顔がけいれんする
- ・片方の顔が痛い



## 聴神経鞘腫

術後6カ月時点の顔面神経麻痺残存

重度な症状  
0%

軽微な症状  
約20%

世界トップクラスの施設と同等の治療成績です

## 埜中正博 Profile

- 1992年3月 大阪大学医学部 卒業
- 1992年4月 大阪大学医学部附属病院 脳神経外科
- 1993年4月 市立吹田市民病院 脳神経外科
- 1995年4月 大阪大学大学院 入学
- 1997年4月 アメリカ ペンシルバニア大学 留学
- 2001年3月 大阪大学大学院修了、博士号取得
- 2001年4月 市立泉佐野病院 脳神経外科
- 2002年4月 国立大阪病院 脳神経外科
- 2004年5月 大阪脳神経外科病院
- 2005年6月 千葉大学 フロンティア工学センター 特別研究准教授
- 2013年4月 国立病院機構大阪医療センター 脳神経外科
- 2014年4月 関西医科大学脳神経外科 小児脳神経外科担当診療教授
- 2024年4月 関西医科大学医学部 脳神経外科 主任教授



## 網膜疾患の外科的治療で 新規治療法・術式の開発に邁進。 よりハイレベルな眼科診療へ

医学部眼科学講座  
主任教授

今井 尚徳

Imai Naonori

### 難治性疾患を減らすべく、 サージカルレチナを追究

眼科の専門領域は多岐にわたりますが、私は網膜硝子体を専門領域としています。網膜硝子体分野は、一般的にサージカルレチナ(手術的網膜治療)とメディカルレチナ(非手術的網膜治療)に細分され、私は特に外科的治療を行うサージカルレチナを得意としてこれまで眼科医の道を歩んでまいりました。

網膜硝子体分野の外科的治療を追究することになったきっかけは、研修医時代にさかのぼります。解剖学的に「黄斑」と呼ばれる網膜の中心部は視力(中心視野)をつかさどる非常に重要な部位であり、眼科分野では黄斑に発生するさ

さまざまな疾患がありますが私が眼科に入室した当時は「不治の病」とされているものが多くありました。難治症例の治療に興味を持つ中、そういった不治の病にはおそらく外科手術で治療し得るものが多くあるのではないかと考え、その道を究めたいと思いました。以来、サージカルレチナを専門とされている眼科研修医時代の恩師や多くのスペシャリストの方々との出会いがあり、現在に至っております。これまで難治症例をはじめさまざまな症例に対する新規術式を開発しつつ、今では「サージカルレチナを科学する」をテーマに日々の研究臨床に取り組んでおります。

これまで手がけてきた  
外科的治療の一部をご紹介します。

### 難治糖尿病黄斑浮腫に対する外科手術

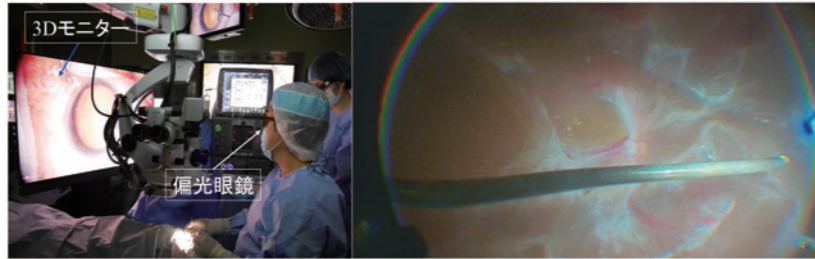
従来の治療法に抵抗性を有する難治糖尿病黄斑浮腫では、浮腫内腔にフィブリンゲル塊が形成されること、外科的に摘出すると黄斑浮腫を治療できることを世界で初めて報告しました。前任地では医療圏外を含む多数の難治黄斑浮腫症例のご紹介を受け、外科手術を施行しながらさらなる病態解明に取り組んでいました。

### デジタルとの融合を目指した最新手術

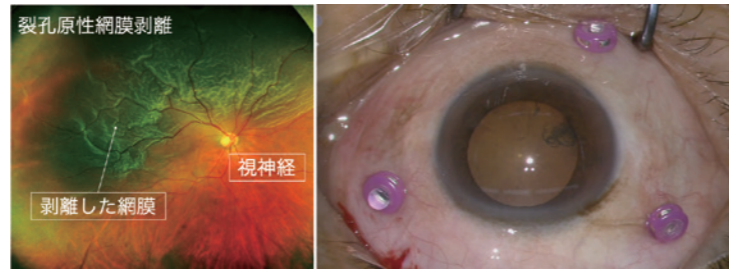
眼科領域でも普及が進む3D手術の技術を用い、術中にリアルタイムで蛍光眼底造影を施行できる術式を世界で初めて開発しました。この手法は難治疾患の手術成績向上に威力を発揮します。現在は、より有効な術式の開発のため、世界各地の専門家と定期ミーティングを実施しています。関西医科大学でもこの術式を導入すべく取り組みを進めているところです。

### 27ゲージ硝子体手術

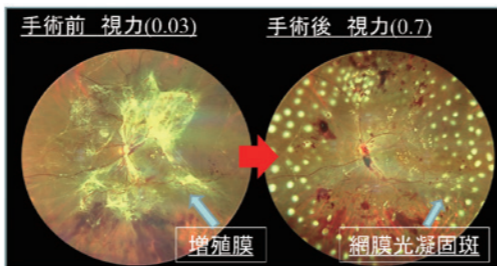
従来多かった20ゲージの創口から行う手術では眼球に1mm以上の切開幅が必要であり、合併症リスクの高さが課題でした。私は全国的にも先駆けて27ゲージ(約0.4mm)システムの硝子体手術を導入し、安全性の高い手術を実施するとともに、良好な治療成績を残しています。



3D手術風景



裂孔原性網膜剥離に対する27ゲージ硝子体手術



増殖糖尿病網膜症に対する硝子体手術の術前後眼底写真

### 増殖糖尿病網膜症に対する外科手術

私は対応が難しいとされる難治網膜硝子体疾患の治療にも積極的に取り組んでまいりました。たとえば増殖糖尿病網膜症では、10年以上にわたる年間50件以上の執刀経験があり、その実績から現在は日本糖尿病眼科学会の理事としても活動しております。また未熟児網膜症をはじめとする小児網膜硝子体疾患に対しても、積極的に執刀に携わり(年40件以上)、良好な成績をおさめてまいりました。

外科的治療を要する眼科疾患は  
お気軽に眼科へご紹介ください

・例えば…

- 難治糖尿病黄斑浮腫
- 増殖糖尿病網膜症
- 裂孔原性網膜剥離
- (小児)網膜硝子体疾患 など

もちろん、外科的治療以外の治療にも  
対応しておりますので、  
お悩みの際はぜひ一度ご紹介ください。

### 地域医療連携を強め もっと頼られる診療科へ

私自身の専門領域はサージカルレチナですが、診療科としては多数の専門外来を設け、幅広い眼科疾患のご紹介を受け入れていきます。近隣医療機関との連携は、逆紹介も地域医療を支えるために欠かせない要素であると考えています。患者さんやご家族に寄り添った丁寧な診察、病状や治療方針のじゅうぶんな説明を徹底して心がけておりますし、またご紹介いただいた患者さんのみならず、ご紹介元の施設の先生方にもご安心いただけるよう務めてまいります。地域のお困りの患者さんを一人でも多く受け入れるべく、信頼いただける診療科となるように医局員一同診療にあたっておりますので、必要な症例などあれば遠慮なくご紹介いただけますと幸いです。

## 今井 尚徳 Profile

- 2001年3月 神戸大学医学部医学科 卒業
- 2001年6月 兵庫県立尼崎病院 眼科 研修医
- 2003年4月 神戸大学大学院 医学研究科 外科系講座眼科学 大学院生
- 2007年7月 アメリカ ペンシルバニア州立大学医学部 眼科・細胞分子生理学教室 博士研究員
- 2009年9月 神戸大学医学部附属病院 眼科 助教
- 2010年10月 神戸海星病院 眼科 医長
- 2014年4月 神戸海星病院 眼科 部長
- 2014年7月 神戸大学医学部附属病院 眼科 助教
- 2018年4月 神戸大学医学部附属病院 眼科 講師
- 2024年5月 関西医科大学医学部 眼科学講座 主任教授





## 専門である気分障害はもとより 精神科領域での幅広い臨床経験から 治療法の確立、創薬に貢献したい

医学部精神神経科学講座  
主任教授

加藤 正樹

Kato Masaki

一人でも減らしたい  
精神疾患で苦しむ人を

社会情勢の変化にとまどない、精神疾患に苦しむ患者さんの数は年々増える傾向にあります。特にうつ病などの気分障害は罹患率が高く、年代を問わず自死の最大の原因でもあることはご承知のとおりです。一方で、適切に治療することで復職など社会参加はもちろんですし、適切な環境調整や早期介入で予防が可能な疾患でもあります。多くの方が困りの気分障害に対して適切な対策を実施し、治療環境のさらなる向上を通じて社会に貢献したい。

知識・経験を活かして  
リエゾン精神科医としての

気分障害の患者さんへの診療では、なかなか改善しない難治例にも適切な診断に基づく薬剤調整や、電気けいれん療法（ECT）、反復経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）などを用いた適切な介入により寛解に導くことが可能です。また、精神科では身体・脳器質疾患を鑑別する能力が重要ですが、精神症状を呈する併存疾患に精通しており、適切な検査を用いて鑑別し、最適な介入、オーガナ

い。そう思い、この領域を専門として医師の道を歩んでまいりました。

イズできるところに私の強みがあると考えられています。背景には、救命センターで専属リエゾン精神科医として勤務した経験があります。身体疾患の知識を身につけ、精神科リエゾン専門医、指導医を取得し、その知識を診療で活かすことさらなる経験を待てまいました。

加えて臨床薬理全般の知識も習得しており、精神科薬物治療専門医・指導医の資格を取得。現在は日本臨床精神神経薬理学会で理事を、日本臨床薬理学会で評議員を務めています。専門知識を活かし、可能な限り少ない薬剤種類、または合理的な併用での治療がモットーであり、メディアを通じてたびたびその重要性の発信にも努めています。

近年、これらの姿勢・実績が認められ、2019年には日本うつ病学会における双極性障害ガイドラインのシステマティックレビュー担当リーダーに任命され、2023年に同ガイドラインを発売。現在は同学会のうつ病ガイドライン作成チームのリーダーを任されています。今後も専門知識をさらに醸成し、患者さんに届く治療法の確立、創薬に貢献したいと考えております。

幅広い受け入れを継続し  
専門診療のさらなる充実を

私たちは他院での対応が困難である難治性精神疾患患者さん、および身体合併症患者さんを受け入れていくことで地域に貢献してまいります。附属病院と総合医療センターは、身



体科に入院中に精神的不調が生じた患者さんに対して、精神科リエゾンチームで対応できるのが強みです。多職種による治療と管理により、リスクの早期発見と連携、退院後のマネジメントまで速やかに実行しています。また、2018年に開設した精神疾患・身体合併症センターでは、大阪府内の精神科50病院のうち25病院から、年間平均200名の精神科関連搬送患者さんを受け入れています。

地域の先生方におかれましても、本学精神神経科でお手伝いできることがあればぜひお声がけください。これからは精神疾患に苦しむ患者さんを一人でも多く受け入れ、うつ病や難治性精神疾患など専門診療のさらなる充実を図ってまいりますので、よろしくお願いたします。

### 難治性気分障害検査入院のご案内

総合医療センター 精神神経科では、抑うつ症状が停滞して、社会生活が妨げられている患者さんに対して「難治性気分障害診断入院」を実施しています。

なかなか寛解しない、目標に到達しないといった患者さんがいらっしゃれば、ぜひご案内・ご利用ください。

概要

- 難治性の気分障害患者様対象の8日間の検査入院です。（現在の治療でうつ病が治らない、元の調子にもどらない など）
- 多角的な検査で現在の状態を評価し、適切な診断と治療の方向性の提案を行います。

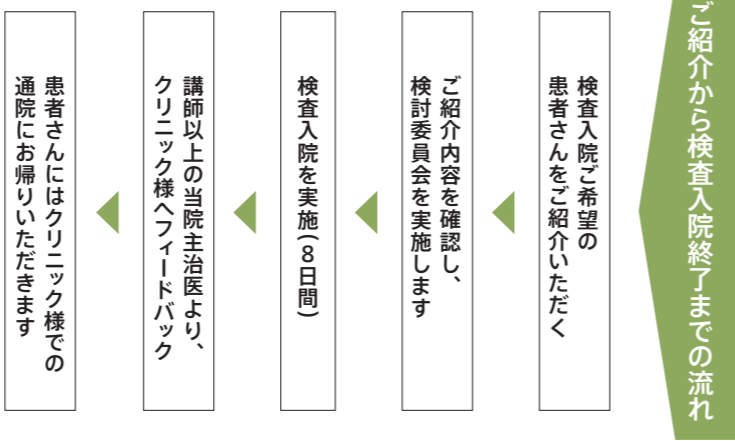


入院中に  
実施する検査

- MRI／脳波／終夜睡眠ポリグラフ（PSG）検査／睡眠リズム評価／性格や特性、適正や能力を評価する心理検査
- これまでの病歴、生活歴を含めた詳細な系統的診断

### 加藤 正樹 Profile

- 1997年3月 関西医科大学 卒業
- 1997年4月 関西医科大学 精神神経科 入局
- 1999年4月 みずき会芸西病院 精神科
- 2002年4月 関西医科大学 助教 救命センター 派遣医
- 2004年4月 関西医科大学 助教 精神神経科
- 2006年3月 関西医科大学大学院 医学研究科博士課程 学位取得
- 2006年5月 イタリア ポローニャ大学 精神神経科 留学  
ポストドクトラルリサーチフェロー
- 2009年1月 関西医科大学 講師 精神神経科
- 2014年4月 関西医科大学 准教授 精神神経科
- 2019年7月 関西医科大学附属病院 精神神経科 科長
- 2024年4月 関西医科大学医学部 精神神経科学講座 主任教授



ご紹介から検査入院終了までの流れ

大阪府内 精神科25病院から  
年間平均

200名  
患者搬送受入れ  
(精神科関連)

総合医療センター

rTMS  
(反復経頭蓋磁気刺激療法)

ECT  
(電気けいれん療法)

実施数

ともに100件以上

近畿地域全体でTCT・rTMSの両治療が認可されている研修施設は3施設のみとなっており、本学総合医療センターはその一つです。

責任医師として

24件

分担医師

18件

精神疾患の治療実施数

# 各診療科 スタッフ一覧

## ■ 上部消化管外科

教授 …… 山崎 誠  
 診療教授 …… 井上 健太郎  
 准教授 …… 山道 啓吾  
 診療講師 …… 向出 裕美  
 助教 …… 小塚 雅也  
 橋本 祐希  
 堀 創史  
 張野 誉史

## ■ 肝臓外科

教授 …… 海堀 昌樹  
 准教授 …… 松井 康輔  
 講師 …… 山本 栄和  
 小坂 久  
 木口 剛造  
 診療講師 …… 石崎 守彦  
 助教 …… 松島 英之

## ■ 下部消化管外科

教授 …… 渡邊 純  
 理事長特命教授 …… 福長 洋介  
 准教授 …… 吉田 良  
 講師 …… 岩本 慈能  
 診療講師 …… 三城 弥範  
 岡崎 智  
 小林 壽範  
 五十嵐 優人  
 井 翔一郎  
 山田 典和  
 北川 祐資

## ■ 胆膵外科

教授 …… 里井 壯平  
 准教授 …… 北出 浩章  
 橋本 大輔  
 講師 …… 脇川 健  
 診療講師 …… 山木 壮  
 助教 …… 松村 和季  
 中竹 利知

## ■ 乳腺外科

教授 …… 高田 正泰  
 理事長特命教授 …… 綿谷 正弘  
 診療教授 …… 岸本 昌浩  
 講師 …… 木川 雄一郎  
 矢内 洋次  
 兼松 清果  
 助教 …… 多田 真奈美

## ■ 小児外科

教授 …… 土井 崇  
 准教授 …… 中村 弘樹  
 助教 …… 奥坊 斗規子  
 佐竹 良亮

## ■ 脳神経外科

教授 …… 埜中 正博  
 理事長特命教授 …… 天神 博志  
 准教授 …… 岩瀬 正顕  
 吉村 晋一  
 講師 …… 羽柴 哲夫  
 須山 武裕  
 武田 純一  
 李 一  
 李 強  
 内藤 信晶  
(救命派遣)

## ■ 眼科

教授 …… 今井 尚徳  
 理事長特命教授 …… 西村 哲哉  
 理事長特任教授 …… 緒方 奈保子  
 准教授 …… 永井 由巳  
 尾辻 剛  
 大 中 誠之  
 盛 秀 嗣  
 診療講師 …… 三木 克朗  
 前田 敦史  
 石本 敦子  
 切石 達範  
 植村 太智  
 近江 正俊  
 盛 佑 子  
 澤田 朋代  
 大庭 慎平  
 佐藤 侑紀

## ■ 精神神経科

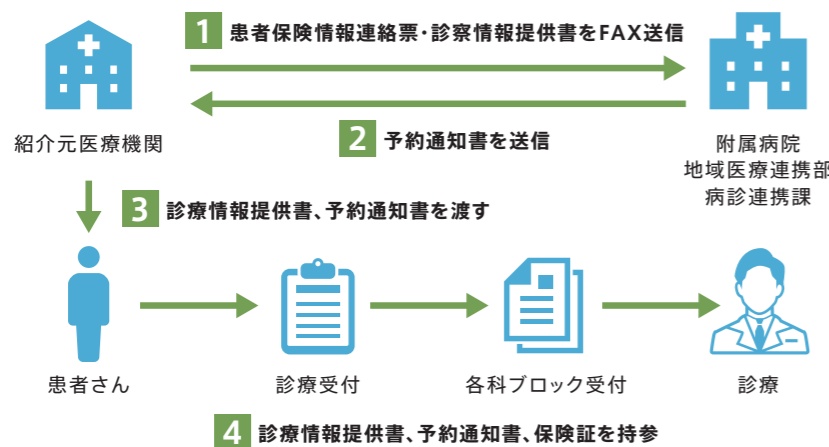
※入院診療は総合医療センターのみ

教授 …… 加藤 正樹  
 診療教授 …… 嶽北 佳輝  
 准教授 …… 吉村 匡史  
 池田 俊一郎  
(救命派遣)  
 青木 宣篤  
 桂 功 士  
 緒方 治彦  
 許 全 利  
 船 槻 紀也  
 南 翔 太  
(救命派遣)  
 佃 万 里  
 田中 優樹  
 新道 賢一

※職位、配置はいずれも2024年7月1日現在。助教以上のスタッフを掲載。

## 患者さんの紹介について

### 紹介手順



- 関西医科大学附属病院 TEL.072-804-2742 FAX.072-804-2861
- 関西医科大学総合医療センター TEL.06-6993-9444 FAX.06-6993-9488
- 関西医科大学香里病院 TEL.072-832-9977 FAX.072-832-9988

※診療科、診療日、医師の指定がある場合は、FAXにご記入ください。  
 ※用紙請求については当院ホームページよりダウンロードいただくか、上記の連絡先にご連絡いただきますようお願いいたします。  
 ※受付時間 平日 8:30~20:00/土曜日 8:30~12:30

- 1 患者保険情報連絡票・診療情報提供書にご記入いただき、FAX【072-804-2861】にて送信していただけます。
- 2 送信いただいた患者保険情報をもとに当院の患者IDを作成。予約をお取りして予約通知書をFAXいたします。
- 3 患者さんに診療情報提供書と予約通知書をお渡しください。
- 4 患者さんは診療情報提供書・予約通知書・保険証を持って、予約時間の20分前までに総合受付の【地域医療連携窓口】にお越しいただけます。

## 京阪沿線の 関西医大拠点

